

みやこユニバーサルデザイン賞とは

京都市では、長い歴史の中ではぐくまれてきた支え合いの精神、芸術、技術等の豊かな蓄積に、ユニバーサルデザインを採り入れた社会環境を整備していくことを「みやこユニバーサルデザイン」としています。

この考え方を多くの皆様に知っていただくとともに、ユニバーサルデザインの取組を推進するため、ユニバーサルデザインを踏まえたアイデアや実践活動を募集し、優れた作品を

「みやこユニバーサルデザイン賞」として表彰しています。

過去の受賞作品

みやこユニバーサルデザイン賞

検索



令和4年度みやこユニバーサルデザイン賞

■テーマ：生活の中のユニバーサルデザイン(アイデア部門、エピソード部門)

■募集期間：令和4年6月1日(水)～12月28日(水)

■応募資格：京都市内に在住または通学・通勤している方

■応募数：アイデア部門 815作品／エピソード部門 111作品

■受賞作品数：大賞 アイデア部門 1作品／エピソード部門 1作品
優秀賞 アイデア部門 11作品／エピソード部門 2作品

■審査方法：令和5年1月31日(火)に京都市みやこユニバーサルデザイン審議会の部会で審査し、受賞作品を決定

■審査委員(五十音順)

氏名	所属・職名等
井川 啓	株式会社井川啓デザイン室【部会長・審査委員長】
上田 克枝	一般社団法人京都手をつなぐ育成会
神岡 茂子	公益社団法人京都YWCA
木戸 玲子	公益社団法人京都市児童館学童連盟
阪根 泰子	市民公募委員
高岡 俊裕	公益財団法人京都新聞社会福祉事業団【副部会長・副委員長】
八田 香里	一般社団法人京都経済同友会
古川 泰司	京都商店連盟
本條 裕子	京都弁護士会
保田 美幸	公益社団法人京都精神保健福祉推進家族会連合会

多数の御応募
ありがとう
ございました。

■発行・問い合わせ先

京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 みやこユニバーサルデザイン推進担当

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 075-222-4161 FAX 075-251-2940

Eメール syogai@city.kyoto.lg.jp

ホームページ <https://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/46-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

みやこユニバーサルデザイン

検索



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!

令和5年3月発行 京都市印刷物 第043202号

京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

この冊子では、多くの人に読みやすいUDフォントを使用しています。



令和4年度 みやこ ユニバーサルデザイン賞 受賞作品集



テーマ
生活の中のユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは…

みなさんが住んでいる社会では、子ども、お年寄り、身体の不自由な人、右利きの人や左利きの人、生まれた国や言葉・文化の違う人など、いろんな人たちが一緒に生活しています。

そこで、「できるだけ多くの人が

- ①「まち」に出かけやすくする
- ②使いやすい「もの」をつくる
- ③分かりやすい方法で「伝える」
- ④利用しやすい「サービス」を考える

ことで、いろんな人が生活しやすい社会にしていこう」という考え方です。

詳しくは… みやこユニバーサルデザイン 検索



みやこユニバーサルデザイン
シンボルマーク





令和4年度みやこユニバーサルデザイン賞

～ テーマ 生活の中のユニバーサルデザイン ～



アイデア部門 大賞

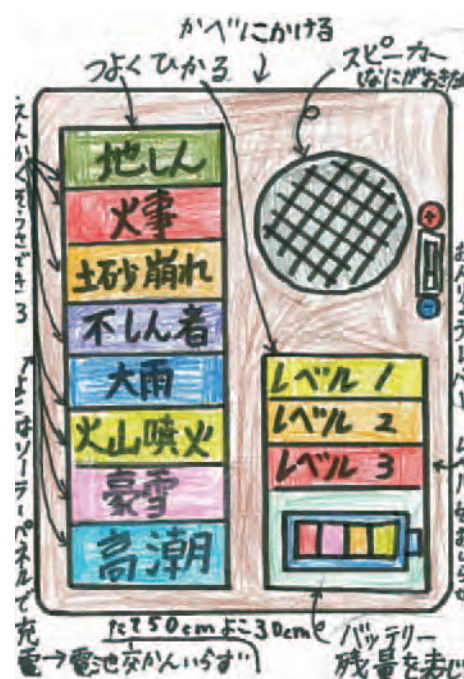
だれでもけいほうき

いまだ さ え
今田 咲笑 桂東小学校4年

学校で地しんがおこった時に、さわがしくてほうそうが聞こえなかった。だから、これをつかえば、しかくしょうがい者も、聴覚しょうがい者でも、にげおくれないうと思ってこれを作った。あと、学校のほうそうはなにがあったか分からないから、なにがあったか分かる。いつおきてもいいように、ソーラーパネルで充電できる。



審査員のコメント
視覚障がいや聴覚障がいのある人、大人、子どもに関係なく、緊急時にどのことについての警報か知ることができ、多くの人の命を守ることにつながるアイデア。自身の経験を通して、他の人の困りごとにも目を向け解決しようとする姿勢も素晴らしいです。



アイデア部門 大賞受賞者の声

大賞を受賞できてうれしかったです。家族みんなも喜んでくれました。このアイデアのこだわりポイントは、ソーラーパネルを付けて、いつでも充電できるようにしたこと。このアイデアが実用化され一人でも多くの命が救えればいいなと思いました。将来は、人に気配りができるような人になりたいです。



エピソード部門 大賞

「おたがい様」

か も の しんのすけ
加茂野 眞之介 朱雀第四小学校5年

母は、ぼくが赤ちゃんの時、階段ばかりの地下鉄構内で、ベビーカーと多くの荷物をかかえながらの移動に、とても苦労したと言う。だから父は、駅で困っている親子を見かけたら、荷物を持って一緒に階段を上がるなど、手助けをしていたそう。「おたがい様」だから。ぼくも、さっと手を差し伸べられる人になりたいと思う。



審査員のコメント
ご家族の素敵なエピソードが子どもに受け継がれ、子どもの心を育てているエピソードに心が温まりました。「おたがい様」と助け合おうとする気持ちが、ユニバーサルデザインのベースだと思います。

エピソード部門 大賞受賞者の声

大賞に選ばれたのは信じられなかったですが、家族もとても喜んでくれました。このエピソードを通して、人を助けることの大切さを伝えたいです。普段は苦手な科目の勉強や習い事の卓球、英語に力を入れていて、将来は微生物の研究者になりたいです。これからも家族と語り合う時間を大切にしたいです。



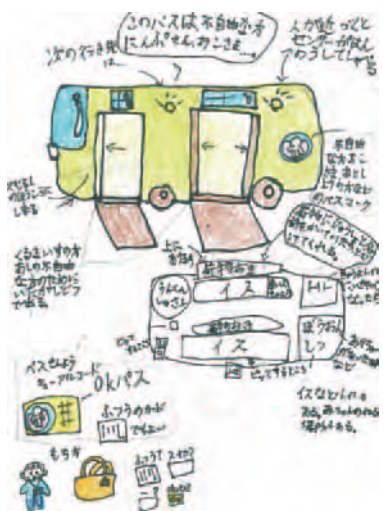
アイデア部門 優秀賞

くふうバス

もりさき ここあ
森崎 心愛 桂東小学校4年



不自由な方、おとしより、おこさま、にんぶさん、こどもづれなど、だれもがのっていい、だれでもバスを思いつきました。おとしよりの方々の気持ちを考えると、だんさがこわい、のっていいの、なやむことがあるようなので、板が自動で出たり、目の不自由な方のため、行き先をきちんとバスの外がわにいても聞こえるように音声つきにしました。この人たち全員乗ってOKという気持ちをこめてOKバスカードの発行も思いつきました。



乗車の際にスロープが自動で出てきたり、車内に赤ちゃんがいいたときの防音コーナーがあるなど、誰もが乗れるバスのアイデア。様々な人のことを想像しながらアイデアをまとめる過程でユニバーサルデザインの考え方を実践していて、頼もしく感じました。

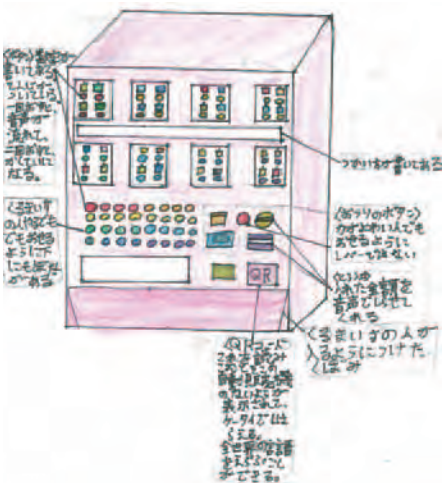
WORLD自動販売機

まつみや ゆうき
松宮 有希 桂東小学校4年



飲み物を自動はんぱい機で買おうとしたとき、上にある飲み物を買えなかった。

普通の自動はんぱい機とちがうところは、おつりを出すところがレバーじゃなくてぼたんのところや、くるまいすの人や子どもでもぼたんをおせるように下にもぼたんがあるところや、くるまいすの人が入るようにつけたくぼみなど。



自らの不便な経験を発展させ、より使いやすくなるために数々のアイデアを加えた自動販売機に感心しました。車いすの人が利用しやすいように、下にくぼみをつけるなどの心配りもユニバーサルデザインとして優れています。

ブラインドマップ

いしい そら きさはら かなた
石井 そら 崎原 奏太



なかむら りゅうせい ほり このあ
中村 琉成 堀 恋杏 洛北中学校1年

現在、多くの人が使用しているナビゲーションでは、車、徒歩、電車などでの移動方法を選ぶことができます。しかし、私達が考えたナビゲーションは、それだけでなく、「目が見えない」、「車椅子」、「ベビーカーあり」などの条件も入れて、目的地へのより安全な経路を検索することができます。



多くの人がスマホのナビ機能を使用していますが、車いすやベビーカーを使用している方は、エレベータの情報が、目の見えない方には音声案内が必要です。いろいろな人にやさしいナビゲーションシステムが実現すればいいですね。

濡れずに車内へ Driver Roof

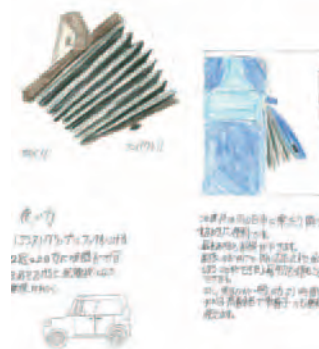
しまだ こじろう
嶋田 瑚次郎 西賀茂中学校3年



一般の方、高齢者の方、体の不自由な人みんなが使える物を考えました。

工夫した所は、よりコンパクトにするために屋根になるシートを蛇腹折りにした所や子どもでも簡単につけられるようにアシストグリップや窓をつかって固定できるようにした所です。

また、あまりめだたないカラーにしたり、シートははじく素材にしたりなど材料にも工夫してみました。



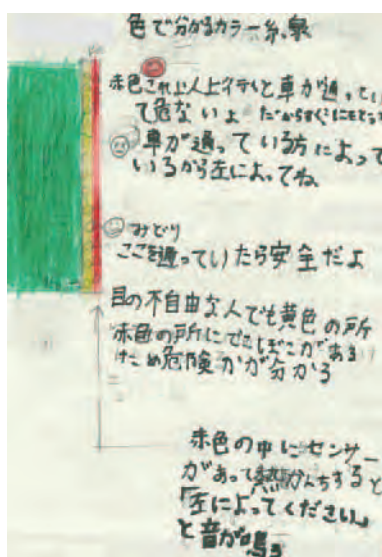
雨をしのげることは多くの人に恩恵をもたらせます。ちょっとした身の回りの不便さを解消することに着目し、多くの人々が喜びアイデアにまとめた発想がすばらしい。イラストも分かりやすく、伝え方にもユニバーサルデザインの考え方が表れていて好感がもてました。

色で分かる!白線の改良

くがい ともひろ
久貝 知弘 下鴨小学校4年



色できけんかが分かったり、目の見えない人でもでこぼこがあり、また赤い所には熱を感じるセンサーがついていて、感知すると「左によってください」とうか音が出る。



視覚や聴覚で訴える方法で、誰にでも優しい歩きやすい道路になると思います。熱で感知し、音声で脱線を知らせてくれるアイデアにも感心しました。

みんなでわくわく遊園地

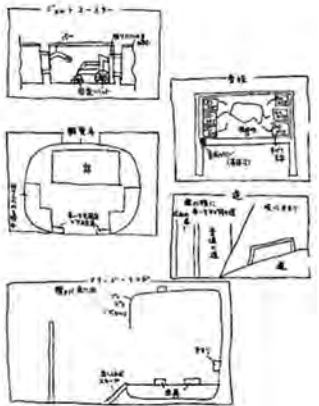
てらもと さほ えぐち るか
寺元 沙帆 江口 瑠香



おおishi ひな ふちはし ひめか
大石 陽菜 瀧橋 妃杞 洛北中学校1年

遊園地なので、アトラクションの楽しさをそのままより乗りやすいようにと考えました。主に車いすに乗っているという前提の物が多いですが、子ども、外国人などでも使いやすいように考えたものもあります。

それぞれ、金具を付ける、追加でちょっとした機能をつけるといった簡単なものですが、「追加でつける」ということで元のアトラクションでも楽しめるという工夫もあります。



一般的なアトラクションは、車いす使用や身長制限があるものがほとんどですが、なぜ誰でも楽しめるユニバーサルデザインとしての発想で遊園地をとらえなかったのか、大切なことに気づかせてくれた作品です。

点字ブロック「やわら」化

みやもと かほ
宮本 佳歩 西賀茂中学校3年



このデザインは母との会話の中で思いつきました。点字ブロックは視覚障がいをもつ方にとって大切なものだと思います。しかし、道が狭く、やむを得ずブロックを踏むとき、「でこぼこ」により不自由さを感じ方がいると思いました。

そこで、私は「でこぼこ」の部分のみを「やわら」化し、「見た目は変えない」というユニバーサルデザインを考えました。ポイントだけを変えることで視覚障がいのある方はもちろん、「たくさんの誰かの負担をちょこっとずつ減らしていける」そんなデザインになりました。このデザインが誰かの助けの一つとなれば嬉しいです。



車いすやベビーカーでの通行時の問題を解消するため、点字ブロックの役割や意味をきちんと調べ、素材のことなど詳細に調べ検討している点が評価できます。視覚障がいの人にとって、点字ブロックの柔らかさをどこまで許容できるか、我々も調べたいと思います。

点字識字手ぶくろ

かいざき あやと
貝崎 絢仁 鴨沂高等学校1年



元々点字を識字できる人との差がでないように手ぶくろのつくりにした。

場所を問わずにつかえるよう、音声をやホンやヘッドホンも使えるようにした。

視覚に障がいのある方のためには点字の視覚障がい者内での識字率は1割だと知って、少しでも視覚障がいのある方が便利に過ごしてほしいと思ったことからアイデアが出た。



視覚障がいのある方の点字識字率の低さを知り、その解決法を考えた発想、新しい技術を活用したアイデアが素晴らしいと思います。点字識字率の向上にも役立つだろうと思います。

アイデア部門 優秀賞

停まって替えよう

いさもと ももか
諫本 桃花 鴨沂高等学校1年



動いているバス内において、人が多い中、わざわざ前まで移動するのは大変だし、足腰が悪い人にとっては危険になりかねない。そこで、バスを待っている間に急かされることなく、ゆっくり両替できるようなものにした。それに加え、車いすや背の低い人にも利用しやすいようにした。ICカードチャージ機能などをつけたら、もっとよくなるかもしれない。



バスの中で両替するという当たり前になっていることから発想を転換し、誰もが慌てず余裕をもって両替ができ、車内事故の防止にも繋がるアイデアだと思います。

混雑具合予告パネル

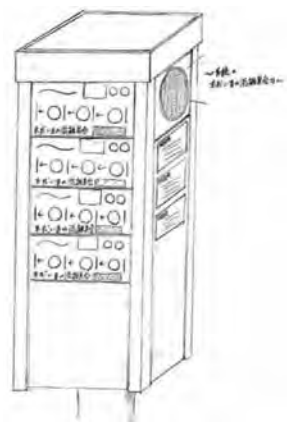
きくち ひなか
菊地 日菜花 鴨沂高等学校1年



このパネルはバスの混雑具合を色と音声で伝える点がユニバーサルデザインであり、特に色は分かりやすく3色に分けられています。

赤色は座席が満席で立っている人も多いことを、黄色は座席に少し空席があり、立っている人も若干少ないことを、青色は座席に空席があり、立っている人もとても少ないことを表しています。バスの乗車口と降車口にセンサーをつけ、乗車人数・降車人数から車内の人数を割り出すため、乗り降りに影響はありません。

視覚だけでなく、聴覚でも判断できるような点は工夫した点だと思います。



自身が普段バスを利用する際に目にする光景から考えられたアイデア。予め混雑状況が分かれば、ルートの変更を考えることもでき、混雑の分散化にもつながるのではないのでしょうか。また、混雑を避けたい弱者への気遣いも自然とできるようになると思います。

音で分かる計量カップ

おんだ ゆうな
恩田 結愛 鴨沂高等学校1年



目が見えない人は料理のとき、どのように調味料の計量をしているのかと思い、このテーマを思いつきました。

目で見ずに計量するために、重さで計量し、音になるというのがポイントです。又、はかりたい所まで急に「ストップ」とならないようにするため、5秒前からカウントするという工夫をしました。



視覚障がいのある人を想定して考えられたアイデアですが、音で分かることは誰にとっても便利だと思います。

エピソード部門 優秀賞

か こ しおり
加古 詩織 桂東小学校4年



「あの時の気持ち」

じゅくに行く時、バスに乗っているとおとしりの方が乗ってきました。席をさがしている様子だったので、勇気をふりしぼって声をかけました。

席をゆずると「ありがとう。」とってくれてうれしくなりました。今でも、その時の気持ちがわすれられません。

これからもわたしたちのまちをゆずりあって笑顔がふえるまちにしたいです。



勇気を振り絞って声をかけ、「ありがとう」と言われた時の気持ちを大切にしていってほしいと思います。こうした気持ちをみんなが持つことでユニバーサルデザインが広がると思います。

つざき けいや
津崎 慶也 京都すばる高等学校2年



「気を使わないで」

僕は、サッカーをしている。ある日試合で腕が不自由な方とマッチアップをした。当然、僕は気を使ってしまう体をぶつけ合うときも躊躇をしていた。

しかし僕は考えた。相手が本気でぶつかってきてくれなかったら、相手が本気でゴールに向かってくれなかったら、自分はどんな気持ちになるだろうと。

その後自分は相手がどんなハンデを背負って試合に挑んできても、自分は遠慮することなく本気でぶつかろうと思った。

【このエピソードについて】

障害を持っている人には…など気を遣う、心配をすることは逆に失礼なのではと僕は思う。ある程度の気遣いは必要だが、スポーツなど相手も本気なのだから、自分たちも本気で挑まないと失礼。そんなことに気が付いた、考え方を考えさせてくれたスポーツです。



スポーツの場面で手加減することが相手にとってどうなのかということを、自分に立場を置き換えて考えた点が素晴らしいと思います。本当のやさしさとは、「相手にとってどうか」を考えられることだとあらためて気付かされました。

令和4年度 みやこユニバーサルデザイン賞審査委員長所感

総評

今回も多く応募をいただき、その数は過去3年で最多となりました。多様性を尊重しながら、皆が暮らしやすい共生社会をつくるために、ユニバーサルデザイン(UD)は必要です。UDについて理解を深めていただき、共生社会をつくる一員になっていただければ幸いです。

アイデア部門

UDは、障がいのあるなし・年齢・性別に関係なく、皆にとって役立つものです。今回は、その視点に立ち、単なる思いつきではなく、現状の課題などをよく調べたうえで提案しているものが多くありました。説明のための絵が、たいへん具体的に分かりやすかったことも、それを裏付けています。

今回、個人ではなくグループで応募していただいた例がありました。皆で話し合って取り組むことは、UDをより深く理解することにつながりますので、我々としても、グループ応募を大いに奨励したいと思います。

エピソード部門

UDは、他者への思いやりがベースになります。今回も、日頃のちょっとしたシーンで、人への思いやりを感じさせるエピソードが多く寄せられました。相手にとってどのように振る舞うのが、本当にその人のためになるのかといった、一歩進んで考えたものもありました。